

## セミナー「地域通貨について学ぼう」が開催される

5月17日(土)、セミナー「地域通貨について学ぼう」(奈良FIC[地域のあすを創る会]主催)が奈良県女性センターで開催された。講師は、奈良県立大学の戸田 清子先生。奈良FICは、昭和62年設立。会員63人(男性13人 女性50人)。活動テーマは歴史、環境問題、福祉、地域づくり等多岐にわたり、会員の希望を話し合い、工夫を凝らした活動を行っており、月1回程度の例会、公開講座を行っている。今回は、地域づくりに役立つテーマとして地域通貨を選んだ。会員の女性を中心に約25名が出席し、地域通貨の基礎を学んだ。

地域通貨とは、国が発行する円やドル、ユーロなどの法定通貨とは違い、コミュニティが独自に発行し、モノやサービスを特定の地域やグループの中で循環させることによって、市場では成り立ちにくい価値を支えていくためのツール。「あたたかなおカネ」とも言われるように、円とは違う特徴を持っている。

自分の「してあげられること」「して欲しいこと」を登録しておき、何か助けが必要な人に対して、自分の「してあげられること」で手伝いをし、自分が助けて欲しいときには、誰かに助けを求めることができる。

今までに知り合いでなかった人ともモノやサービスの交換が可能。交換の方法は、参加者同士がサービスの一覧表を参考にして連絡を取り合う場合と、コーディネーターが間に入って調整を行う場合がある。

人からちょっとしたことをしてもらい、おカネ(円)を払うと失礼になったりする時に、地域通貨が活躍の場となる。

地域通貨は、地域の中を循環するので、地場産のモノやサービスを地場で消費することになり、ひいては地場の経済を活性化させることになる。(上田)